

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501373		
法人名	医療法人 愛全会		
事業所名	グループホーム ひだまりの丘(ありんこの家)		
所在地	北海道札幌市南区南沢4条1丁目7番-10号		
自己評価作成日	平成27年12月20日	評価結果市町村受理日	平成28年3月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170501373-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成28年2月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

3ユニットの利点を活かして合同の家族を含めた行事や外出を実施しています。昼夜間の勤務においては職員同志お互いに協力体制を築き、安全、安心なケアを提供しています。

温かい家庭的な雰囲気の中、地域の方による支援を頂き、ボランティアの音楽療法は毎月行っており、近隣の中学校からの職業体験の受け入れ、夏祭り行事へ参加して頂く等、地域の方々との信頼関係を大切に築いております。

協力医療機関との連携により、重度になっても適切な医療協力をうけられます。職員一人ひとりが認知症に関する知識を得るための外部、内部研修は積極的に参加しています。また人材育成への貢献として実践者研修やリーダー研修、及び看護学校、福祉専門学校からの実習生の受け入れを積極的に行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市郊外の閑静な住宅地に位置し、飲食店・病院・コンビニ・大学・高校・バス停等が近く、利便性が良い2階建て3ユニットの事業所である。運営母体である医療法人は、多くの医療・福祉・介護事業を展開しており、長年培った実績を運営に活かしている。事業所内の廊下やリビング等の共用スペースには、絵画や美術品が飾られ利用者は、美しい家具・調度品に囲まれ、日々心豊かに暮らしている。さらに、事業所のタイムスケジュールに合わせて生活するのではなく、起床・入浴・就寝時間等の決まり事はなく、一人ひとりのペースで、まるで自分の家のように自由な時間をゆくりと過ごしている。管理者と職員は、社会とのつながりを保ち季節を肌で感じる様に、行事外出・近隣散歩・外食等の支援をしている。また、ボランティアや、研修生の受け入れも積極的に行っている。近隣住民との交流も盛んで利用者の町内会行事の参加や、事業所の夏祭りや防災訓練にも地域住民が参加し、信頼関係を築いている。防災面にも配慮し、年3回、地域住民参加で避難訓練を行っており、防火管理者による毎日の自主点検も行っている。質の高い個別ケアの実践と共に、利用者が持っている力を発揮しながら、安心安全で豊かな暮らしを楽しめるように支援している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様一人ひとりの尊厳を守り、地域で安心して暮らせるように支援している。職員は理念の意義を確認しながらサービスを提供している。	法人の理念と行動指針の他に、全職員で検討し作成した各ユニットの理念を掲示している。またユニットの理念はパンフレットに記載し、多くの人の目にとまるように配慮している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節ごとの清掃や草木の手入れなど、地域で取り組んでいることに一緒に参加している。地域のボランティアさんの協力を得、音楽療法を毎月行っている。	清掃・花壇作り・新年会等の町内会行事に参加している。音楽療法・化粧・ドッグセラピー・華道・そばうち等のボランティアや看護学校の実習生を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事や研修会、会合への参加を通して認知症ケアの啓発に努めている。人材育成の貢献として認知症介護実践者研修や福祉専門学校の実習を受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに計画的に開催しサービス提供の内容報告を行うと共に、地域やご家族様からの意見を検討し次回に報告を行っている。	年6回定期開催している運営推進会議では、行事予定と報告・地域との交流・事故報告・防災計画など、積極的に情報を開示し、利用者家族や地域住民からの意見も、前向きに検討し改善している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の依頼により認知症実践者研修の実習受け入れを行なっている。また地域包括支援センターとの連携も密にしている。	市の集団指導には管理者が出席し、行政の方針を共有している。さらに市主催の研修会に参加することで、他のグループホームと交流する機会がある。地域包括支援センター職員は運営推進会議にも出席している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、内部外部研修で身体拘束について学び行為を正しく理解している。日々のケアでは行っていない。玄関にはセンサーチャイムが取り付けられ施錠しない工夫がなされている。	事例を基にしながらか話し合いをし、職員の理解が深まるよう工夫しながら研修を行っている。自由な生活を尊重し、さりげなく見守りをしている。1階のユニットの出入り口は施錠していないので、利用者は自由に行き来している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は内部、外部の研修、講習会に参加し虐待防止を遵守している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な人への制度について説明をして活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項を説明し同意を得、契約をしている。グループホームでの生活が継続できなくなった場合は家族と相談し、不安がないよう医療機関などの紹介を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時会話の場を持ち意見や苦情を受け入れ改善している。運営推進会議でご本人やご家族の意見を聞き運営の参考にしている。	年一度、無記名の家族アンケートを実施し、事業室でとりまとめケアの改善や見直しに効果を上げている。玄関入り口に意見箱を設置しており、家族の来訪時には積極的に話し合いの場を持っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回法人内での人事考課が実施され職員の意見や要望を聞いている。働きやすい環境にするよう職員も意見を言える機会がある。	管理者は日常の業務を通じ、積極的に職員の意見等を聞き、運営に反映している。また年2回の人事考課で意見要望を聴取し、全職員が向上心を持って働けるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課で個々の実績等を把握している。内部、外部の研修参加を積極的に取り入れ、自己啓発に取り組めるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に内部、外部の研修を開示し受講を積極的に勧めている。働きながら必要な研修が受けられる体制にある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に入会し研修を通してネットワーク作りを行っている。管理者連絡会での意見交換などをサービスの質向上につなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人、家族と面談している。自宅や入居前の施設へ行き生活状況を認識している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学や面談などで本人や家族が納得されるまで説明をしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学の時点で必要なサービスを見極めると共に、施設の相談員やグループホーム事業室にて検討相談している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動など出来ることを一緒に行い、共に支えあって過す関係を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「ありんこメール」を毎月発行し、家族が見られないグループホームでの暮らしている姿を紹介し、家族と共に支えていく関係を築いている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人が来訪された際は居室やリビングでゆったり過せる環境作りをしている。	家族との墓参りや、古くからの友人宅を訪問する等、馴染みの関係を継続できるように支援している。また、節分・ひな祭り・七夕等の日本古来の行事を大切に、季節の移り変わりも感じる様に配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事等、利用者同士と一緒に活動し、話が出る場を作っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族の相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりを通して一人ひとりの思いをくみ取るようにしている。本人の立場にたつてのケアを支援している。	日常の会話や、表情・行動等から利用者の思いや意向の把握に努めている。また家族からも意見や意向を聞き、ケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活、家族の要望等を必ず伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の出来ること出来ないことを見極め個別の支援を行っている。お手伝い等出来る形でしていただいている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望、思いを理解し職員全員で話し合い介護計画書に活かしている。	身体の変化や本人・家族の要望を聞き、今一番必要としている事をケアプランに反映している。医師や看護師と意見交換を行い、常に現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は常にプランに目を通し情報の共有や実践を行い、必要が出た場合カンファレンスで話しあい見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人にとってよりベストなことを家族の状況を踏まえ柔軟に対応している。本人や家族の同意のもと訪問診察を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会を通して日頃から近隣の大学、商店との関係を持ち入居者が地域に出やすい環境にある。「音楽療法」のボランティアも定期的に来訪している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関はご家族が決められ、医療機関受診には職員が受診同行する等で、かかりつけ医との関係を築き、医療を受けられるように支援している。	利用者の健康管理は医師による月1回の訪問診療・看護師による週1回の訪問看護がある。歯科・皮膚科の往診もあり、病状や症状に合った病院を受診でき、常に適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師が週1回健康管理のため来訪している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は利用者の情報を速やかに提供し、また入院中も情報交換を行い早期退院に向け努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応指針に関する説明を家族に行っている。クリニックや訪問看護ステーションとの連携体制は出来ている。	重度化や終末期の指針を策定し、事業所ができることを説明し家族の同意を得ている。医師や看護師の助言を受けながら、家族と対話を重ね、チームとして取り組むことにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	備えの連絡網、及びマニュアルも作られており内部研修でも訓練をしている。地域でのAEDの緊急応急手当対応も受講している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回避難訓練を実施している。地域の参加協力を得ている。 地域との協力体制として緊急時の連絡網もある。	年3回消防署の協力の下、近隣住民が参加し避難訓練を行っている。職員は危機管理に対する意識が高く、地域と連携し協力体制を築くよう取り組んでおり、緊急時の連絡網も作成している。	火災以外の、台風・地震・雪害などの自然災害に対応できるような防災訓練の実施と、訓練することで見えてくる、倒れる危険のある家具や電気製品の洗い出しなど、今後の防災対策に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いによる言葉かけや対応にならぬように注意や助言をしている。個人情報の取り扱いも注意を払っている。	個人別の記録は、利用者の名前を明記することなく、職員が解る記号を使っている。接遇やコンプライアンスは、内部研修で学ぶ機会がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	健康等に悪影響を及ぼすことでない限り本人の希望や決定を最優先している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる事出来ない事を見極め出来ない部分の支援に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容室や床屋さんが来ますが利用するかどうか等は、本人が決めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には盛り付け、配膳、片付けのお手伝いをしている。	調理にかかわる作業を行う事で、食への楽しみが持てるよう支援している。誕生日には、希望の食べ物を確認し反映している。個々の嚥下や咀嚼状態合わせソフト食を提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作るバランスの取れた食事を提供している。摂取量、水分量も1人ひとりチェックし記録している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできない方には声かけ見守りをして出来ない部分を支援し清潔にしている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄間隔に合わせトイレ誘導や声掛けを行っている。排泄チェック表で記録することにより個々のサイクルを理解し、支援に役立っている。	一人ひとりの心身の状況や、個々のサインを見逃さないように、尊厳に配慮したトイレ誘導をしている。各ユニットにはトイレが3カ所あり、使いやすく整備され、清潔である。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄を記録することにより、運動と水分量にも気を配り便秘の予防に取り組んでいる。時には主治医に相談し、対応を求めることもある。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望を確認して入って頂いている。午前・午後と毎日入浴できる体制をとっている。入浴を拒む場合も本人の意思を尊重し、タイミングを見て再度の声掛けをしている。	個々の希望や体調に合わせた入浴支援をし、リラックスして入浴できるようにしている。希望があれば毎日入浴できる。入浴拒否傾向の利用者には、時間や気分を変えたり声かけの方法を工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間はなく、眠たいときに眠るようにしている。寝付けぬ時等は職員が話し相手となり対応している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から1人ひとりの服用している薬について説明と処方箋をもらい理解している。薬が変わった時も情報を共有している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなことや趣味は続けられるように支援している。今は数名の方が職員と一緒にゴミだし、食器拭き、配膳等の手伝いをされている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	3ユニット合同の外出行事には車椅子乗り入れ可能な大型バスで家族様と共に参加されている。近くにコンビニもあり、職員と共に買い物にも行っている。	季節や天候によって、庭での外気浴や近隣の散歩をしている。月に数度は外出や外食行事で遠出をしている。系列のグループホームで開催している『オレンジカフェ』にも、職員と共に参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の希望で預かっている。買い物の希望があれば職員と一緒に買い物に行ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、知人からの電話、手紙があります。手紙を出されたり、電話で話をされることもある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	白を基調にした壁で光も自然な明るさです。洗面所には花が飾られ清潔と季節感を出している。	各ユニットには、リビングから続くバルコニーがあり、気楽に外気に触れることができる。季節感のある生花・行事写真・絵画が飾られており、心地よい共有空間になっている。また事業所には菜園や花壇があり、近隣の庭も含め窓からの眺めも目を楽しませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで自由に気の合う人と話をしたりお茶を飲んだりして過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の時に本人、家族と相談しそれまで使っていた物等や好みの物を持ってきていただいている。	仏壇を持参し、毎朝水とご飯をお供えしており、月命日にはお坊さんがお参りに訪問する等、自宅で生活しているのと同じような暮らしを継続している。居室は整理整頓され清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー対応で廊下や浴室に動線に沿って手すりを付けている。洗面所、トイレは車椅子の方が使いやすいつくりにしてある。		